

(2) 自然環境と生物

那珂川の源流域

a. 那須岳の動植物

那珂川の水源は、茶臼岳(那須町)等からなる那須岳のひとつ、朝日岳(標高1,896m)の北西斜面とされている。そして、周辺の山々から流れ出るいくつかの沢を集めて深山湖に注ぐ。

那須火山の活動はおよそ50万年前に始まり、最初に<sup>かつしあさひ</sup>甲子旭岳、次いで三本槍岳、さらに朝日岳と南月山の順に形成された。茶臼岳は標高1,915mであり、現在も活動を続けている活火山である。最近では、昭和38年(1963)に小規模な水蒸気噴火が起こっている。

標高1,600~1,750mの風衝地帯ではガンコウランのほか、アカモノ、クロマメノキ、シラタマノキ、マルバシモツケ、ウラジロタデ等が見られる。標高1,500m以上でハイマツを中心とする高山帯の植生が見られる。茶臼岳北東斜面では高山植物群落が見られる。標高1,500~1,600mでは、コメツツジ、ベニサラサドウダン、ウラジロヨウラクなどのツツジ科植物が優占する低木林が発達し、ベニバナノツクバネウツギ、オオカメノキ等も見られる。



那須岳(茶臼岳)をのぞむ(7月)



図4-3 那須岳周辺



ガンコウラン (ガンコウラン科)  
(写真: 榎日水コン)



ウラジロタデ (タデ科)  
(写真: 榎日水コン)



アカモノ (ツツジ科)  
(写真: 榎日水コン)



マルバシモツケ (バラ科)  
(写真: 榎日水コン)



ウラジロヨウラク (ツツジ科)  
(写真: 榎日水コン)



コメツツジ (ツツジ科)  
(写真: 榎日水コン)

図 4-4 那須岳周辺の植物

那須岳ロープウェイ山麓駅（標高1,400m）付近では、亜高山帯植生のダケカンバ林が見られる。那須岳周辺では、岩場に生息するイワツバメやアマツバメ、高山帯に生息するイワヒバリや、山地性のチョウ類であるクジャクチョウ、キベリタテハ、シータテハ等が見られる。



キベリタテハ（タテハチョウ科）  
（写真：川田 如久氏）



シータテハ（タテハチョウ科）  
（写真：川田 如久氏）

図4-5 那須岳周辺の昆虫

#### 那珂川源流の碑

『茨城県大百科事典』によると「那珂川の水源地は栃木県那須郡の那須岳を上流端とし、」とある。国土地理院発行2万5千分の1地形図で見ると、那珂川本流の深山湖より上流は、男鹿岳を源として東流する大川と、東側の那須岳の山々から流れる峠沢、中ノ沢などいくつもの沢を合わせて西流する湯川とに分かれている。

このうち、朝日岳の北西の谷にある中ノ沢が湯川と名を変えて流れる右岸側に、平成2年（1990）に黒磯市（現：那須塩原市）が市制施行20周年を記念して立てた「那珂川源流」の石碑がある。この理由について、当時「那珂川源流探検隊」を結成し、源流探検の企画・運営に当たった増淵三津男さんによると、「国や茨城・栃木県の関係者と相談し、中ノ沢が那珂川水系の中で最も北の標高の高い所に水源があるという点で決めた」という。

「那珂川源流」の碑は、史跡として有名な三斗小屋宿跡の近くにあつて、その存在は比較的に知られている。



（平成14年9月）

図4-6 那珂川源流の碑